

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

令和4年第36週の発生動向

トピックス

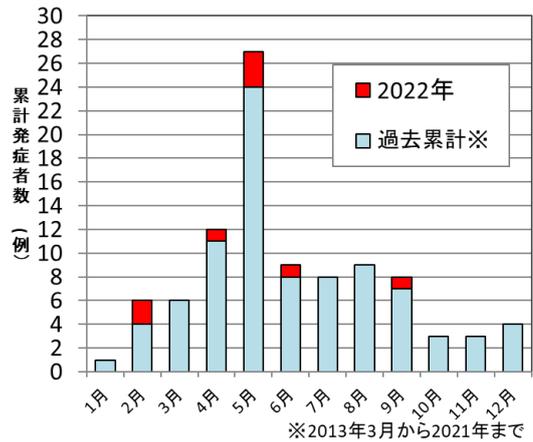
・今年9例目となる重症熱性血小板減少症候群（SFTS）（全数報告の感染症）の報告が宮崎市保健所管内からあった。患者は80歳代の女性で、ダニの刺し口は確認できなかった。報告数が多かった昨年（13例）の36週時点（12例）と比較すると少ない報告数となっている。

また、届出が開始されて以降の県内での累積報告数は、累計96例となった。

県内のSFTS 年齢別報告数(届出開始以降)

20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
1	1	2	3	22	37	25	5

県内のSFTS月別発症者数(届出開始以降)



・新型コロナウイルス感染症(新型インフルエンザ等感染症)の報告が8,660例あり、先週(10,845例)の約0.8倍となった。2022年の累積報告数は178,198例となった。※詳細は宮崎県新型コロナウイルス感染症特設サイトを御覧ください。

全数報告の感染症(36週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核1例。3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症3例。
4 類感染症：重症熱性血小板減少症候群1例、日本紅斑熱2例。5 類感染症：梅毒1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	70歳代	男	肺結核	発熱
3類	腸管出血性大腸菌感染症	都城	5~9歳	女	—	腹痛、水様性下痢、O血清群不明(VT型不明)
		延岡	5~9歳	女	—	腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐、発熱、O157(VT1VT2)
		日向	5~9歳	男	—	腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐、発熱、O157(VT1VT2)
4類	重症熱性血小板減少症候群	宮崎市	80歳代	女	—	発熱、下痢、血小板減少、白血球減少、全身倦怠感
	日本紅斑熱	宮崎市	60歳代	男	—	発熱、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常
			80歳代	女	—	発熱、刺し口、発疹
5類	梅毒	宮崎市	10歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	初期硬結、硬性下疳、鼠径部リンパ節腫脹

定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は233人(定点当たり6.8)で、前週比86%と減少した。なお、前週に比べ増加した主な疾患はRSウイルス感染症、咽頭結膜熱及びA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した主な疾患は感染性胃腸炎と手足口病であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

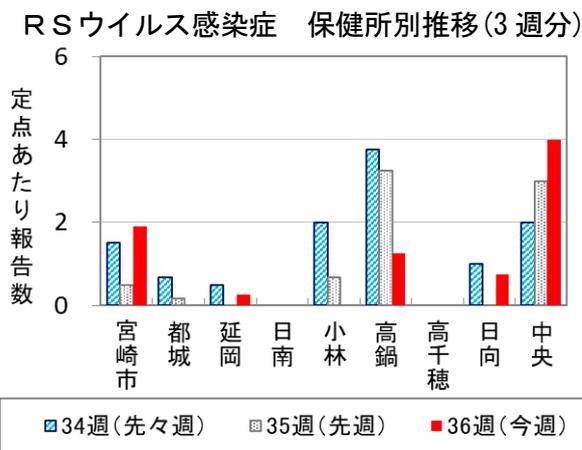
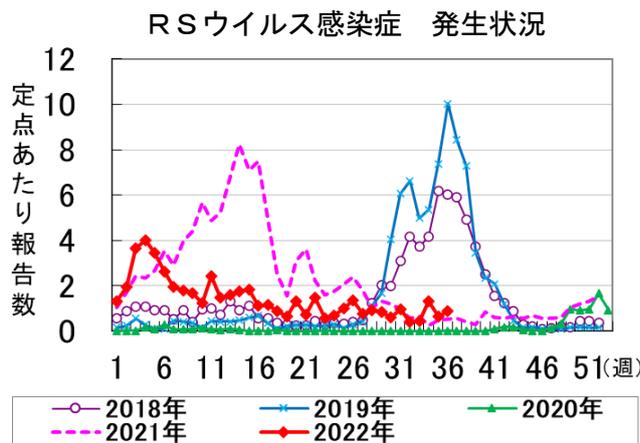
【RSウイルス感染症】

報告数は32人(0.89)で、前週比133%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値*(4.2)の約0.2倍であった。中央(4.0)、宮崎市(1.9)、高鍋(1.3)保健所からの報告が多く、年齢群別は6ヵ月から2歳が全体の約8割を占めた。

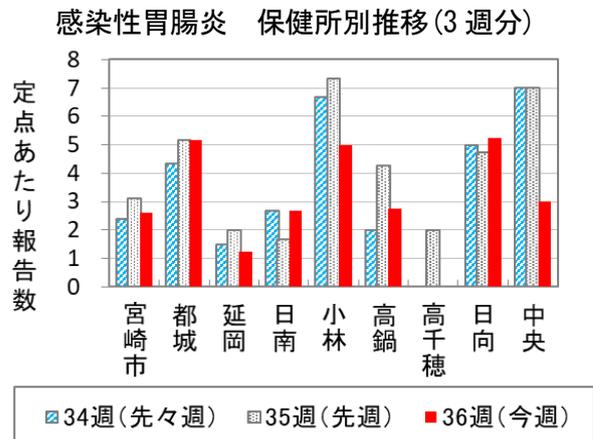
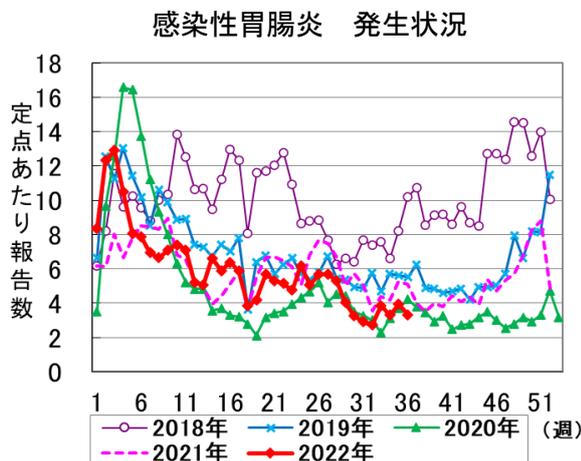
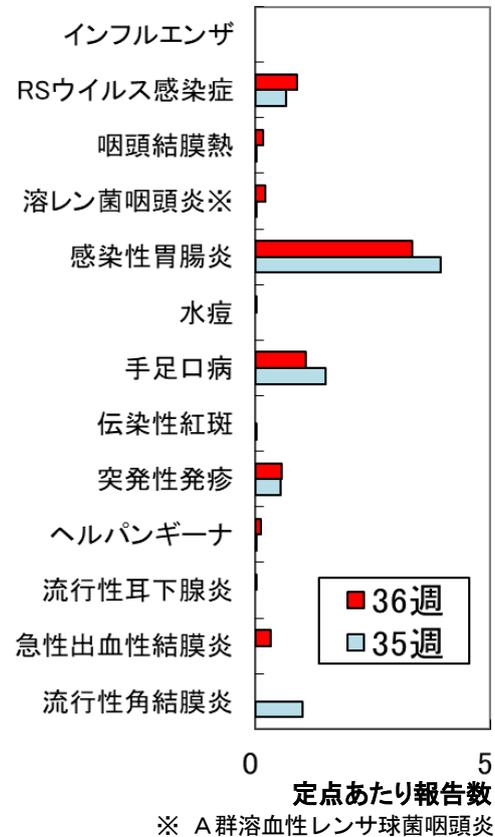
【感染性胃腸炎】

報告数は120人(3.3)で、前週比85%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値*(6.2)の約0.5倍であった。日向(5.3)、都城(5.2)、小林(5.0)保健所からの報告が多く、年齢群別は1歳から2歳が全体の約4割を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均



《前週との比較》



★基幹定点からの報告★ なし

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患★ なし

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 令和4年9月12日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料
<i>Salmonella</i> Braenderup (O7:e,h:e,n,z15)	40歳代	女	2022.08.12	無症状	便
<i>Salmonella</i> Stanley (O4:d:1,2)	5～9歳	男	2022.08.19	発熱(40.0℃)、胃腸炎(水様性下痢)	便
<i>Salmonella</i> Poona(O13:z:1,6)	70歳代	女	2022.08.23	発熱(37.8℃)、胃腸炎(水様性下痢、嘔気)	便
EPEC(O119:H21)	60歳代	女	2022.08.03	無症状	便
EPEC(OUT:HNM)	5～9歳	男	2022.08.17	胃腸炎(水様性下痢)	便
EPEC(OUT:HNM)	0～4歳	男	2022.08.17	胃腸炎(水様性下痢)	便
EHEC(O26:HNM VT1)	0～4歳	男(12)、女(8)	2022.08.12	水様性下痢(8)、軟便(5)、下痢(2)、無症状(5)	便
	5～9歳	男(2)、女(2)		水様性下痢(2)、嘔吐、腹痛、軟便、無症状	
	30歳代	女	2022.08.21	無症状	
	40歳代	女	無症状		
	70歳代	女	無症状		

○保育施設において腸管出血性大腸菌 026 (VT1) の集団感染が発生した。腸管出血性大腸菌は食べ物を介した感染だけでなく、簡易用ミニプール水等を介した感染拡大の防止にも注意する必要がある。厚生労働省による「保育所における感染症対策ガイドライン」（2018年3月改訂（2021年8月一部改訂））では適切な濃度の塩素消毒と①低年齢児が利用することの多い簡易用ミニプール（ビニールプール等）についても塩素消毒を行うこと②排泄が自立していない乳幼児には個別のたらいを用意し、他者と水を共有しないよう配慮すること③プール遊び前後にシャワーで汚れを落とし、プール遊び前には流水を用いたお尻洗いを行うことの徹底などが推奨されている。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
RSウイルス	0～4歳	男	2022.06.20	RSウイルス細気管支炎、39.0℃、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2022.09.02
ヒトパレコウイルス3型	0～4歳	男	2022.06.30	有熱性けいれん、ウイルス感染疑い、39.6℃、熱性けいれん、上気道炎(咽頭炎)、発疹(丘疹)、網状チアノーゼ、腹部膨満	便	2022.08.31

✚ 全国 2022 年第 35 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	183 例				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	117 例	腸チフス	1 例	パラチフス	1 例
4類感染症	E型肝炎	3 例	A型肝炎	1 例	つつが虫病	1 例
	デング熱	4 例	日本紅斑熱	9 例	レジオネラ症	47 例
5類感染症	アメーバ赤痢	8 例	ウイルス性肝炎	3 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	33 例
	急性弛緩性麻痺	2 例	急性脳炎	9 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	8 例	後天性免疫不全症候群	9 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	13 例	水痘(入院例)	8 例	梅毒	190 例
	播種性クリプトコックス症	2 例	破傷風	1 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 例
	百日咳	8 例	風しん	2 例	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1 例

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 112%と増加した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はRSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病及びヘルパンギーナで、減少した主な疾患は特になかった。

RSウイルス感染症の報告数は4,518人(1.4)で前週比116%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.8)の約0.8倍であった。山口県(4.4)、徳島県(3.7)、香川県(2.9)からの報告が多く、年齢群別では6ヵ月から3歳が全体の約8割を占めた。

手足口病の報告数は11,733人(3.7)で前週比113%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(2.0)の約1.9倍であった。山形県(17.5)、宮城県(10.5)、福島県(7.5)からの報告が多く、年齢群別では1歳から3歳が全体の約8割を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2022年 第36週(09月05日～09月11日)

疾病名	第35週	第36週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数 定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス	報告数	24	32	19		1		5		3	4
感染症	定点当り	0.67	0.89	1.90	0.00	0.25	0.00	1.25	0.00	0.75	4.00
咽頭結膜熱	報告数 定点当り	1	6	3	1	1		1			
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数 定点当り	1	8	3	1		2	2			
感染性胃腸炎	報告数 定点当り	142	120	26	31	5	8	15	11	21	3
水痘	報告数 定点当り		1	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数 定点当り	54	39	14	8		4	8	1		4
伝染性紅斑	報告数 定点当り	1	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数 定点当り	19	20	6	4	5		2	1	1	1
ヘルパンギーナ	報告数 定点当り	1	4	1	1	1					
流行性耳下腺炎	報告数 定点当り		1	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数 定点当り		2	2	0.67	0.00	0.00				
流行性角結膜炎	報告数 定点当り	6	1.00	0.00	0.00	0.00					
細菌性髄膜炎	報告数 定点当り		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数 定点当り	1	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数 定点当り		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数 定点当り		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数 定点当り		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:58、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2022年 第1週～36週)

2類感染症	結核	80例(1)		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	40例(3)		
4類感染症	E型肝炎	2例	重症熱性血小板減少症候群	9例(1)
	日本紅斑熱	6例(2)	レジオネラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	2例	ウイルス性肝炎	6例
	急性脳炎	2例	クリプトスポリジウム症	2例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例	後天性免疫不全症候群	2例
	侵襲性肺炎球菌感染症	8例	水痘(入院例)	3例
	播種性クリプトコックス症	3例	破傷風	4例
新型インフルエンザ 等感染症	新型コロナウイルス感染症	178198例(8660)		

()内は今週届出分、再掲